

機械器具 48 注射筒
一般医療機器 汎用注射筒（JMDN：13929001）

メドライン シリンジ

再使用禁止

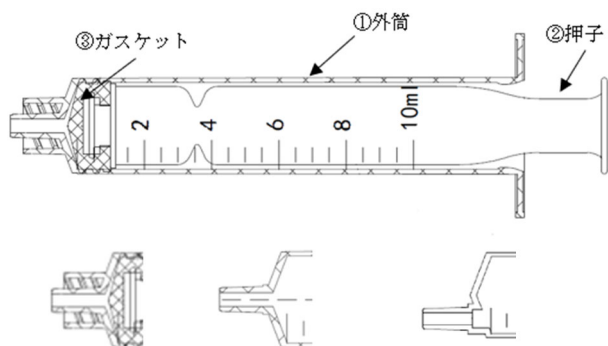
【禁忌・禁止】

1. 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

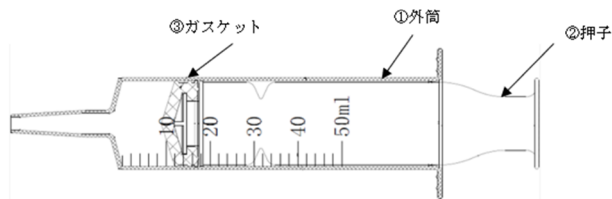
構造図

(ロックタイプ/スリップタイプ 代表図)



ロックタイプ 中口スリップタイプ 横口スリップタイプ

(カテーテルチップ)



材質：

<外筒/押子>ポリプロピレン

<ガスケット>ポリイソブレン（天然ゴムラテックス不使用）

【使用目的又は効果】

本品は、液体を注射・注入するか引き抜くために用いる器具である。
主として注射針を用いて薬剤の投与又は採血に用いることが多い。

【使用方法等】

1. 適宜滅菌する。滅菌方法はエチレンオキサイドガス滅菌を推奨する。
2. 施設の基準に従い、薬液注入や採血などの処置を行う。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 注射針等を接続し使用する場合には、誤刺に注意し慎重に取り扱うこと。
2. 包装を開封したらすぐに使用すること。

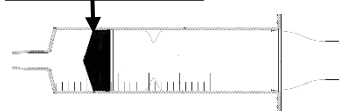
【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

1. 造影剤等の高圧注入には使用しないこと。[破損等のおそれがある。]
2. シリンジポンプと併用する場合は、シリンジポンプの製造販売業者に適用の可否について問い合わせること。[外筒や押子がシリンジポンプに正しくセットされないと、過少投与や過量投与、急速注入のおそれがある。]

3. 他の医療機器と併用する場合は、確実に接続、又は取り付けられていることを確認し使用すること。また、接続に際して、過度の締め付け及び増し締め等には十分注意すること。[液漏れ、空気混入、接続部の緩み、破損等のおそれがある。]
4. 本品に過度の引張りや、接続部に対する過度の応力を加えないこと。また、患者の体動による押し潰し等には十分注意すること。[接続部の破損、緩みや外れ等が生じるおそれがある。]
5. ロックタイプを使用する際、ロック部ネジを必要以上に回さないこと。[破損等のおそれがある。]
6. 本品の目盛合わせは、下図の位置で行うこと。

目盛合わせ位置



7. 医薬品の種類によっては、本品の外筒の内側に塗布されているシリコーン油が析出することがあるので注意すること。シリコーン油が析出した場合は、適切な処置をとること。
8. 薬液の吸引後は直ちに使用すること。[薬液が結晶化し、針管に詰まるおそれがある。]
9. 冷えた薬液を吸引し使用する場合は、取り扱いに注意すること。[低温下では耐衝撃強度が低下し、破損する可能性がある。]
10. 外筒を強く押し潰したり、握ったり、又は押子を斜めに引かないこと。[外筒とガスケットの密着性が低下して液漏れや空気混入のおそれがある。]
11. 外筒印刷部の目盛を超えて押子を引かないこと。[押子が外筒から抜けて液漏れが生じる可能性がある。]
12. 押子を繰り返し前後させる等の操作を行う際には、押子を汚染させないように十分注意すること。[押子を經由して外筒内を汚染するおそれがある。]
13. 外筒印刷部をこすったり、あるいは薬液がついた状態で放置しないこと。[目盛等の印刷部が剥がれるおそれがある。]
14. 薬液との接触部分には直接手を触れないようにすること。[感染のおそれがある。]
15. 接続部に薬液、又は血液を付着させないこと。[接続部の緩み等のおそれがある。]
16. ヘパリンロック等の操作を行う場合は、血液をカテーテル内に逆流させないようにシリンジの操作に注意すること。[ヘパリン等を注入後、押子から手を離すなど押す力を緩めると、静脈圧やシリンジの構造上の特性により押子が押し戻され、血液がカテーテル内に逆流し、ヘパリン量と濃度、及びロック時間等の条件によっては凝血する可能性がある。]
17. 注射針の装着は無理な力をかけずに行うこと。[破損や湾曲等のおそれがある。]
18. ガスケット部に注射針等で傷をつけないこと。[破損が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。]
19. 製品の性質を変化させる薬剤と併用しないこと。[ガスケットのゴム部分が膨潤、軟化等により気密性、摺動性に影響するおそれがある。]

【保管方法及び有効期間等】

保管の条件：

水濡れに注意し、直射日光、オゾン、紫外線、熱源、X線、高温多湿を避けて保管すること。

有効期間：

本品の使用期限は包装に記載。[自己認証（自社データ）による]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：

メドライン・ジャパン合同会社

電話 (03) 5842-8800